

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん (1号店)		
所在地	羽島市上中町中708-1		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわおんは開設して17年の月日が経ちました。今年、広大な畑の真ん中に通路(コンクリート道路)をつくり、野菜の成長を観察しながら散歩に出掛けています。収穫した野菜は皆さんと一緒に調理し美味しく頂いております。個別のかかわりでは脳トレ、体操、リハビリなど行い体調管理にも気をつけていますが、何より土と共に生きる生活を大切に、自然の中で穏やかに過ごしていただければ幸いです。職員勉強会は年8回以上開催し、スキルアップを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「スタッフ行動規範10ヶ条」を文書化し、すべては皆の幸のためで結び、職員は、毎朝唱和している。職員同士が互いに相手を労り合うことが、より良い利用者サービスにつながる事だと意識しており、笑顔あふれるホームである。利用者の中には、農業の経験を活かし、中心となって畑で野菜を育てる人や、利用者自らが、散歩時に他の車椅子の人をサポートするなど、それぞれが暮らしの中で役割を持って行動し、力を発揮できるような支援に取り組んでいる。また、広い敷地の一部を地域住民に開放して、様々な行事に活かす取り組みを検討しており、さらなる地域密着型サービスの充実をめざしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1号店)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、ミーティングの際には、会社理念、行動規範を読み上げ、職員が理念を共有出来るようにしている。	法人理念を基に、毎朝、「スタッフ行動規範10ヶ条」を唱和し、職員間で共有している。利用者一人ひとりの希望や望む暮らし方を把握し、日々、利用者の喜びに繋げられるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月には円空祭り参加し、地域の方と利用者様の交流場となっている。中学校ボランティア職業体験にも交流を行っている。	代表が地元の老人クラブの会長でもあり、地域の行事には利用者と共に参加している。文化祭は準備段階から関わり、利用者も作品を出展している。ボランティア団体の受け入れや、学生の介護体験を受け入れ、研修の場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回「介護事例発表会」を開催している。地域の方に介護の仕事の良さ、認知症について知って頂く発表会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、行事報告や予定、事故・ヒヤリハット報告書について意見交換して実際に行事にも参加して頂いている。	運営推進会議は「地域福祉を考える会」と称し、行政、区長、民生委員、老人クラブ、議員経験者など、多くの参加を得て、意見交換を行っている。災害時における地域の取り組み、支援体制についての助言を得て、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で高齢福祉課の方と交流している。月一回介護相談員の方が来てくださり、利用者様の相談にのって下さっている。	介護保険の動向や地域高齢者の状況、事業所の実情などについて意見交換を行い、行政と連携を図っている。日常的に困難事例などを相談して助言を得たり、行政主催の研修会には積極的に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	しない為に社内研修を重ね拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望、外出されたい利用者様がみえる時は、スタッフが付き添い自由に行動出来る様支援している。	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回以上開催し、職員間でも拘束についての研修会を開催している。拘束しないことで起きるリスクを想定し、職員の英知と経験を生かしながら、拘束をしないケアに向けて、学習会を行い、利用者の希望に沿った支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議、社内研修にて高齢者虐待について学び身体だけではなく言葉などの虐待もある事を理解し防止出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、毎年社内研修を定期的 に開催し、すべての職員を対象に成年後見 制度等を学ぶと同時に虐待防止についても 意識付けしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に話し合いをさせて頂き利 用者様家族に、理解、納得をして頂いてから 契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	運営推進会議への家族様の参加、家族様が 来所された時や年二回開催している家族会 の場にてご意見、ご要望を聞かせて頂き運 営に反映させている。	年2回の家族会には、ほとんどの家族が参加 し、意見交換を行っている。訪問時にも、要望 を聞くよう努めている。毎月、家族宛てに、利用者 の日常生活や行事の様子を写真入りで記載し たホームだよりを送付している。	事業所の空いている敷地を利用し、行 事や農作業などに活用しながら、これ まで以上に家族との関わり、地域との 連携を深めたい意向がある。職員と十 分な意見交換を行い、その実現に期待 したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回リーダー会議、ヘルパー会議、委 員会を開催している。ヘルパー会議にて職 員の意見交換し、リーダー会議に取り上げ、 事業報告、取り組みの意見交換をしている。 その際、代表者、各事業所の方にも意見を 聞きサービスに反映している。	各ユニットのリーダーが、日常的に職員からの 意見や要望を聞き、課題点を把握している。勤 続年数の長い職員も多く、様々な提案を尊重し ながら、速やかに改善したり、組織的に検討を 要する事は代表者につなげ、働きやすい職場環 境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者やリーダーが意見を言いや すいよう心掛けている。管理者やリーダーは 職員が楽しく生き生きと働けるよう環境作り に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を受 ける機会の確保や、働きながらトレーニング していくことを進めている	法人内では委員会を作り月一回は研修を開 催している。又、社外の研修も取り入れてス タッフのスキルアップにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を 向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通して、他事業所と の交流の機会がある。「介護感動事例発表 委員会」の場では他事業所と協力して発表 会に取り組む事でサービスの質の向上を目 指す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のお話をよく聞き、困っている事、不安を感じとり、要望に応えながら信頼関係を築いている。楽しく、安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は今までの介護を通し、困った事や不安を抱えている。又、入所の際も不安を感じている為、安心して任せて頂けるように入所初期は特にこまめに連絡を取り、要望や気付いた事を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様、スタッフとの面談の場所を設けサービスに関する要望を伺い、そこから支援を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は人生の先輩であり、学ぶ事も多く、常に色々な事を教えて頂いている。不自由な部分を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は家族様にとって大切な存在であり家族にしかできない事がある。家族様が来所された際は、本人も交えて家族との会話を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ねて本人馴染みの場所に出掛けている。親友、親戚の訪問時にはゆっくりと会話して頂ける様環境提供している。	家族や親戚の訪問はあるが、入居年数の長い利用者が多くなり、友人、知人の訪問は少なくなっている。近隣の行事や散歩に行くことで、馴染みの友人に会えるよう支援している。利用者の希望は、家族に協力を得られるよう依頼し、実現につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の性格や認知の程度を理解しており、利用者様同士の人間関係についても把握している。外出やレクリエーションを通してお互いの関係が良くなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設ではサービス終了ほとんどが本人他界によるが、家族との関係は続く事もあり、いつでも相談や支援が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話から、利用者の考えや思いを把握している。意思疎通が困難な利用者には毎日のケアの中で気づきを大切にしている。	家族から、今までの本人の生活歴を聞き、その情報と日常の関わりの中で、思いや意向を把握している。職員は常にゆとりを持って、穏やかな対応に努め、好きな事、得意な事を把握し、利用者本位の暮らし方ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からお聞きしたり以前に介護サービスを利用していた方は事業所からも伺うようにしている。又、入所後も会話の中から生活歴や馴染みの環境、生活環境を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体変化のある方は主治医との連携を密にし、毎日介護記録を記入して情報共有している。有する力を把握する為に、介護記録やヘルパー会議を活用し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望ややりたい事、そしてご家族にもご本人がどの様に施設で生活して欲しいかをお聞きしている。担当者が3カ月ごとにモニタリングを行い、全スタッフ、主治医にも現在の支援のあり方について聞き、ヘルパー会議にて話し合いケアマネが現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランについては、家族の訪問時に聞いたり、電話や手紙でもやり取りして希望を把握している。ケアマネジャーは、介護職員と同じシフトで現場に入り、利用者の状態を把握できるよう努め、家族や関係者と意見交換を行いながら、利用者の状態に即した計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護支援経過に日々の様子やケアの実践状況、気づき、工夫を記録すると共にヘルパー会議、申し送りで情報を共有しながら実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに沿えるように個別ケアに取り組んでいる。住み慣れた地域をドライブにしたり、お買い物に出掛けたり、ランチ、モーニングに出掛けたりして一人一人に柔軟なケアが出来るように努めている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントした上でその方に必要な社会資源の把握に努めている。運営推進会議での地域の方からの情報収集に努め地域の方といつでも関わり、繋がりを持って生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設では、ご家族が望むかかりつけ医を自由に選んで頂いています。その為、入所前からの状況を医師が把握しており、施設ともスムーズな情報共有、連携がとれている。	契約時にかかりつけ医の選択について説明し、本人・家族が、入居前のかかりつけ医を主治医として選択している。訪問看護や、かかりつけ医の往診を受けながら、ホームの看護師と連携し、情報を共有しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、些細な事、異変があった場合主治医に相談し支援している。訪問看護も月一回往診して頂いており、24時間電話連絡が出来る様になっており適切な看護が提供出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を細やかにいき、担当医師や看護師と面談し病状把握に努めている。退院時のカンファレンスにも積極的に参加してかかりつけ医との連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設では看取りを行っている旨をお伝えしています。終末期はご家族の希望を尊重し、その方やご家族の望む終末期となるように支援させて頂いております。	重度化や終末期の対応について、事業所の方針を説明し、利用者と家族の同意を得ている。状態変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、適切に対応をしている。終末期については、医師や看護師の意見、家族の希望を尊重しながら、より良い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して置いてある。看護師が主導となり定期的に社内研修を開催し、いざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震を想定した避難訓練を開催し実際に運営推進会議委員の方々にも参加して頂き意見交換している。昼、夜の時間帯を交互に想定し開催。水害対策については、運営推進会議にて意見交換会をし情報収集をしている。	年2回の防災訓練を夜間想定を含めて実施している。運営推進会議委員も参加し、地震や水害についても、訓練後に意見交換を行いながら、協力体制を築いている。備蓄を完備し、消費期限の点検なども行っている。	地域で行われる防災訓練にも事業所から参加し、相互の協力関係がさらに深まる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声掛けに気を付けている。申し送りで、社内規範を読み上げ、利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	職員が常にゆとりを持ってケアにあたり、利用者の笑顔や、「楽しい」という言葉が聞けるよう努めている。行動規範を基に、日々のケアと介護の基本を振り返りながら、利用者との信頼関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話す機会を多く設け、話しやすい関係を作り事で希望を言いやすい環境作りをしている。自己決定が難しい方にはこちらから提案したり、選択制にするなど、自己決定する場を設け自分の思いを伝えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、利用者様の思いに添った支援が出来るよう心掛けている。一人ひとりのペースを大切に、したい事をお聞きし、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアークットは職員がさせて頂き、その方の意思を聞いてカットしている。洗顔後、化粧水を付けたり、整髪料使用する等身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを伺い、利用者様と一緒に準備、片付け手伝い、食材買い出しにも同行して頂いている。朝、昼、夕三食をホームで調理し、職員も同じ食事を一緒に食べ、会話を楽しみながら利用者様の個々のペースで食事している。	利用者が育てた野菜も利用しながら、朝昼夕の三食とも事業所で作り、利用者もできる範囲で準備に参加している。利用者と共に買い物の行き、献立が買い物中に決まることもある。自分たちで育てた野菜を話題にしながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日記録している。お茶があまり得意ではない方にはお好きな物で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け職員皆が同じレベルで口腔ケアが正しく出来るようにしている。歯科医との連携もとれており、分からない事を質問しケアの向上に努めている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を決め、声掛けをトイレでの排泄が出来るように支援している。排泄の訴えない方でも、トイレに座って頂く事でトイレでの排泄が出来る。	トイレでの排泄が習慣になるよう、日々、声かけと誘導を行っている。夜間は利用者の状態に合わせ、パッドやポータブルトイレを利用している。職員の声かけにより、排泄の自立者も増え、本人の負担費用軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多い食材を使用した料理を食べて頂くなど便秘にならないよう気を付けている。便秘体操も行っている。排便コントロールを心掛け、排便日数によっては便秘薬で調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが、健康状態や本人の希望を優先し、無理のない対応をしている。入浴はスタッフと利用者様が一對一となりコミュニケーションを図る大切な場であり、足浴、シャワー浴等個々に添った楽しい入浴タイムになるように支援をしている。	入浴は基本週3回であるが、農作業や散歩後の利用者の状態に合わせて、足浴、シャワー浴等、希望にも応じながら支援している。広い浴室は気の合う利用者同士での入浴や、介助しながらコミュニケーションを深めるなど、楽しい時間になるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルチェック、顔色、表情はつねに気を配っており、状況に応じて休息して頂く。利用者様が安心して、良眠出来る様に就寝前にはお経を読んだり、快眠音楽を聴く等して心のケアも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されるとスタッフが確認し、管理している。服用時はスタッフが名前、日付確認後手渡しをし、飲み込みもしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、利用者様には個々にあった役割を決め食器拭き、作品作り、洗濯たたみ、裁縫等その方の強みを活かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の行きたい所に行っている。普段なかなか行けない所は事前準備をしっかりし、家族様へ連絡してから外出支援している。	天候や利用者の健康状態に合わせ、毎日、9時からの散歩を日課にしている。利用者自らが、他の利用者の車いすを押す事もあり、周辺の農道を歩いたり、公園などへ、寄り合っ出かけている。遠方への外出計画もあり、桜や紅葉などの季節の花見にも出かけている。	

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布はスタッフが管理している。本人が欲しい物がある時はスタッフ同行し、一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話かけて下さい」の要望には応じるようにしている。スタッフが家族様に連絡し電話している。手紙のやり取りはないが、毎年年賀状は出来る方には書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清潔にしている。机や棚の上には物を置かないよう整理整頓を心掛けている。玄関やホールの壁には季節感のある、作品や写真を展示して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用の間は広く、窓越しに季節感を味わうことができる。廊下が広く、車椅子の利用者も、安心・安全に移動できる。壁には、季節の作品や行事の写真を飾っている。利用者同士や職員との会話を楽しみながら、居心地よく生活することができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様はホールで過ごされる時間が多いため、立ち上がりが無理なく出来るよう肘掛けの付いた椅子に座って頂いており、人の手をかりず自由に立ち上がり行きたい所に自由に行くことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットとタンスが置いてあり利用者様の状態に合わせて配置をしている。また、家族の思い出の写真や小物を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室の表札には、自分の部屋が分かる工夫がある。使い慣れた整理タンスや小物を持ち込むことができ、利用者の好みと、安全に配慮しながら設置している。家族の写真や思い出の作品を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは利用者様と関わる事で「出来る事」「出来ない事」を把握し、スタッフ同士情報共有し、より良いケアを提供出来るように努力している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん (2号店)		
所在地	岐阜県羽島市上中町中705-3		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和元年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2号店)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範の描かれているクレドをスタッフほぼ全員が持っている。朝礼、昼礼の時に行動規範を必ず読む事になっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の夏祭りに協賛で参加している。秋に開催されている、地域の文化祭にも参加して利用者様の作品を展示している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年年一回、岐阜県の他の事業所と協力しながら、介護感動事例発表会を開催している。地域の方々に介護の仕事、認知症についての知識を広げようと取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所で開催した行事、事業所での出来事を報告したり、実際に行事に参加して頂いたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、民生委員、元羽島市議長、羽島市役所の職員に参加して頂いています。2か月に1回介護相談委員会の方に利用者様の相談、心のケアをして頂いている。毎月1回地域のボランティアさんを招いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実現するために、スタッフは社内研修をしている。身体拘束について具体的な行為を理解できている。日中は、玄関は施錠せずに開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議や社内研修で勉強会として取り上げて、身体の虐待だけでなく言葉の虐待などもあるのでいろいろな角度から物事を考え防止している。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて理解している。現在、成年後見人制度の対象者は見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に話し合いをさせて頂き、利用者様と家族様に理解、納得をして頂いてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族様の参加、来所された時にご意見やご希望を聞かせて頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のリーダー会議を開催して、事業計画の報告、意見交換などを行っている。その際、各事業所の方、代表者とも意見交換をしている。リーダー会議での意見は、ヘルパー会議にて報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが意見を言いやすい環境に心掛けています。個々の個性を生かせる環境にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、委員会を作成し研修を開催している。新人スタッフに、ベテランスタッフを組み合わせ指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通じて、他の事業所と連携したり、社会福祉協議会の会議(半年に1回)に参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のお話を傾聴し、不安な事、困っている事、問題を明確にし、サービスの明確化と信頼関係を気づくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様は、多くの不安を抱えている。施設に安心して頂ける事にも不安も感じている為、安心して任せて頂ける様に、こまめに連絡を取り、要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様、スタッフとの面談の場所を設け、利用者様の要望、サービスに対する要望を伺い、関わったその日から支援をスタートさせるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、学ぶ事も多く、常にいろいろな事を教えてもらいながら、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会議を定期的開催している。施設での様子、今後の目標などを共有している。ご家族様が来所された時は、本人様を交えての会話を大切に家族様に感謝している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所、今まで生活してきた場所、行きつけの喫茶店へは個別ケアとして実行している。散歩の際に良く顔を合わせる近所の方から野菜を頂いたり、ボランティアの方が、顔見知りで定期的に来て頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者様の性格や認知度、病気を理解した上で双方のコミュニケーションが上手く図れるように間に入っている。レクリエーションを通して仲間意識が強くなれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が、他界された後でも、ご家族様が果物や野菜を持って来て下さいます。いつでも相談できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活会話から出てくる思いを見逃さずに傾聴して、職員の間で共有している。会話が難しい利用者には、表情を見て感じ取っている。一人一人話せる時間、環境にも気を付けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様、利用されていたサービス事業所、ケアマネージャー、病院、市役所と利用者様と関わりのある所から情報をえて、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで、どの様に過ごして見えたかをアセスメントしてなるべくその生活が、継続できるように努めている。心身の状況は日々変化するので、毎日の様子を確認すると共に、有する能力の把握にも務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者にモニタリングをしてもらい、利用者や家族様に今後の目標を聞いている。今後のケアのあり方について、ヘルパー会議で話し合いの疑問点をドクターや訪問看護に聞くようにしている。全ての意見を反映できるように介護計画の原案を作成し、家族会議で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに気づきを記入して、申し送りで情報共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに沿える様に個別ケアを大切にしている。昔の馴染みの喫茶店や図書館へ行っている。畑仕事を一緒に行い収穫を楽しんでいる。一人の時間を提供できるように柔軟に対応できるようにしている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様に合った社会資源を提供している。地域の行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族が望むかかりつけ医に診てもらっているので、医師との信頼関係が出来ている。緊急時や専門外の医療にも情報提供がスムーズに行われ適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を月2回診て頂いている。24時間電話連絡できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会を積極的に行い担当医や看護師と面談し状況把握に努めている。退院時には、カンファレンスに参加してかかりつけ医のとの連携をしている。病院主催の勉強会は積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から家族様と話し合いをしている。事業所で、出来る事と出来ない事を理解して頂ける様に努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成してある。事業所内で研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練をしている。運営推進会議の時に、反省会、災害についてなど、市役所の方、地域の方と意見交換会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人が声掛け、言葉使いに気お付けている。申し送りでは、社内規範を読み心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや挨拶の場で希望の言いやすい環境にしている。また、希望の言えない方はこちらから提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大事にしている。コミュニケーションの中で、したい事を聞き、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が、着たい服を着て頂いている。また、スタッフが、毛染めやカットをさせて頂いている。メイクは、出来ない場合は、させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフとほぼ一緒に食材を見て考え提供している。作る際には、お手伝いをお願いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に水分・食事摂取量を記録して、確認しやすいようにしている。摂取量が少ない時は、利用者様が好きな物を食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には、口腔ケアをしている。できない方は、スタッフが介助している。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し、排泄時間を決めて介助している。自立している方は、声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事後に、乳製品・バナナを摂取して頂いたり、食物繊維の多い食事を摂取している。排泄時には、マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、月、水、土と決まっている。利用者様が、入浴したい場合は、入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に過ごして頂ける環境づくりに努力している。体温調節の難しい方、バイタルチェックしたり、表情観察をして、過ごしやすい環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月薬が処方されると、スタッフが確認し管理している。薬を飲まれる時は、スタッフが手渡し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日利用者様が活躍・役割を持ってもらい楽しく過ごして頂けえる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の行きたい所へ行っている。なるべく実現できるように打ち合わせをしている。		

岐阜県 グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は、スタッフが管理している。必要な時に利用者様と同行し購入・使用などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方は、スタッフが掛けてして頂いている。利用者様に手紙を用意して書いて発送などもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、毎日清潔にしている。利用者様の部屋は、一緒にしている。季節感のあるフロアにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ前にはテーブルを置いて交流できるようにしている。ベランダ付近に畳椅子が置いてあり、自由にできる場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真・馴染みの物・塗り絵・作成した作品などを飾り、利用者様の空間にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、「できる事」「できない事」をしっかりと把握し、スタッフ同士で情報共有している。		